

金融機関の企業業績に貢献する力量の測定 —企業データを用いて新評価指標の実証研究—

京都大学 研究員 吉原清嗣

〈報告要旨〉

金融機関が顧客企業に対して成長に資する活動の度合いを示す場合、アンケート調査を中心に顧客満足度などをその尺度にすることが多い。しかし、この主観的な調査には疑いの余地も残る。金融機関は顧客企業の財務にプラスの影響を及ぼしているのか、顧客企業の発展に貢献しているのか。残念ながら、現在の金融機関経営指標からは直接的に顧客企業と一緒に成長した金融機関と、表現は良くないが顧客企業を犠牲にして成長した金融機関を区別することは困難である。金融機関に対する現在の主要な経営指標は、金融機関が顧客企業を育成し発展させるために存在するという考えを直接反映していない。

本論の目的は実際の金融機関の顧客財務指標データを利用して、顧客サイドのデータから金融機関を評価することである。そして、金融機関の意思決定の違いにより企業成長に違いがあるのかを確かめることである。一定の金融機関のパフォーマンスを比較するものではない。むしろこの測定手法を実際に運用する場合の問題点や改良点を見つけ結果の意義の確認を主な目的としている。当然であるが、現在の金融機関経営指標を一つたりとも否定するものではない、むしろ尊重したうえで、この指標も加えてはどうか、というのが筆者の考えである。これが金融機関の社会的価値を測るメカニズムでありその導出される数値が回答の一つであると考えている。